

3

「水」をテーマに、時代のニーズを読み的確に応える高機能製品の開発を続ける！

「父の経営する金属成型などを扱う会社の現場で勤務していた頃から、製品作りに興味が有り、勤務の後に開発をしていました」と語る代表取締役社長の池田博毅氏。約18年前、浄水器の製品化を思いつき、当時最先端ともいえる開発を進めた。試行錯誤の末、約1年後に浄水器が完成し、しばらく後の浄水器のブームで会社は好況に沸いた。メーカーとして世界で戦いたいと独立後、安心安全な水を「浴びたい」というニーズがあると感じ、シャワーヘッドに着目。高機能にこだわった製品開発で、群馬大学の研究機関などの協力も得て「ナノ」レベルの超微細なバブルを発生させることに成功した。その機能を搭載して製品化したのが「ナノバブル・ナノ・シャワー草」だ。肌への浸透性が極めて高いナノバブルが、肌や頭皮の毛穴の汚れや皮脂、合成界面活性剤、二オキシの原因物質まですっきり除去。シャワーを浴びた時の保温性も高い。「休日にくっくりにアイデアを練るのが楽しい」と語る同氏は、この高機能シャワーヘッドの性能をさらに極めるべく研究開発中だ。



株式会社岡野製作所
 営業所：寝屋川市太閤町 16-8
 TEL.072-827-0801
 マイクロハクマック圧力センサに関するお問い合わせ
 TEL.06-6586-9940
<http://www.okanoworks.com/>

4



有限会社藤川樹脂
 堺市美原区多治井 814
 TEL.072-362-5703
<http://www.fujikawa-jushi.co.jp/>

5

真空計測に革命をもたらした品質、歩留まり向上に大きく貢献

「真空」と聞けば、食品の長期保存における「真空パック」などを思い起こすが、ものづくりの現場でも「真空」が大活躍しているのはご存知だろうか？ 1952年創設の株式会社岡野製作所は、真空状態を計測する機器を主力に作り続けてきた専門メーカー。同社が2012年に発表した「マイクロハクマック圧力センサ」は、センサ部分を薄膜化した世界初の超小型で堅牢さに優れた圧力センサ。本品の登場により、たとえば金型の成形用空洞内にセットするなど、真空環境内のピンポイント圧力測定が可能になった。複数個のセンサを使用すれば対象物内の圧力分布も「見える化」でき、不具合が発生した場合の対応が容易になり作業のムダが省け、歩留まりの向上にも貢献。「ものづくりの環境は千差万別。お客様とのやりとりを通して、最適な計測スタイルを提案できるのがうちの強み」と話すマイクロセンサ事業部長、岡野夕紀子氏。産官・産学連携にも長年取り組み、優れた技術と開発力で生産性向上を支援するエキスパートとして、岡野製作所は多方面の企業との出会いを求めている。



橋田技研工業株式会社
 大阪市平野区加美北 6-15-14
 TEL.06-6791-7000
<http://www.hashida-giken.co.jp/>

6



株式会社モリック
 守口市南寺方北通 2-1-15
 TEL.06-6992-0479
<http://www.moric.co.jp/>

7

徹底した人材教育を柱に、蓄積された技術力を活かす「提案型企業」として事業を次々に展開！

ガスタービンなどの精密部品を主力に、発電施設の建設や環境を守る触媒機の製造など多岐にわたる事業を手がけ、国内だけでなく欧州の大手メーカーとも直接取引を行う橋田技研工業株式会社。1967年の創業当初から金型設計、部品製造、プレス板金加工などで高精度なものづくりの技術力で信頼を得てきた。「各部門に精通した技術者が育ち、受注した図面の変更まで行い効率化を図る『提案型企業』をめざす力になっています」と語る代表取締役社長の橋田寛氏。20年ほど前から社員教育に力を注いでおり、大手自動車メーカーの教育方法を熟知する幹部OBを講師に招き継続的に指導を受けるなど、徹底した教育を行ってきた。「人づくりは業務のすべてに優先する」が同氏のモットー。M&Aで取得した赤字事業を人材活用と教育により優良収益事業へと変えている。「企業は新しい事業へ挑戦してこそ長く続く」という持論を実践してきた同氏が、今、最も注力するのは、同社初の一般住宅向けの「玄関の自動ドア」。ドアに触れずにリモコンや暗証番号だけで開けられる。春から関西地区でCM放映を予定。大阪から旋風を巻き起こしたい」と期待を込める。

8

最高学府の信頼をバックボーンに優れた実績を築く大学発ベンチャーの強み。

近畿大学の薬学部、農学部、生物理工学部、附属農場、東洋医学研究所が知的財産を結集させ、「研究室から生まれたサプリ」の事業化を実現している株式会社・ファーマ近大。その主力商品は抗アレルギー成分を高含有した早摘み青みかんをまるごと使用して、栄養機能食品としてサプリメント化した「ブルーヘスベロンキャンディ」。営業ノウハウを持たない大学関係者で設立したため、当初はなかなか売れずに苦戦していたが、口コミと地道な営業活動が功を奏し、近年ではドラッグストアを中心に花粉症などアレルギーでも悩む方々に売れ行きが伸び、前期は春先を中心に7万個の売上を達成したという。「健康食品の信頼に驕りが見える今、近大なら大丈夫と思ってもらえるのが大きい」と同社は大学発ベンチャーの強みを語る。同社では「近大サプリシリーズ」として青みかん以外にも美肌には青はっさく、生活習慣病対策には黒しょうがを使用した栄養補助食品も商品化しており、今後も近畿大学の特許権や知的財産を活用した近大サプリのブランド戦略を積極的に推進していく予定だ。

株式会社ア・ファーマ近大
 大阪市中央区日本橋 1-8-17
 (近畿大学会館 2階)
 TEL.06-6213-6807
<http://www.kindai.ac.jp/rd/venture/apk/>



Facebookを活用した情報発信から人脈を拡大。3Dプリンター導入で新たな事業発掘をめざす！

「創業当時から、小さな町工場のイメージで取引先1社の仕事を黙々とこなす会社でした」と語る代表取締役の藤川勝也氏。3年前に会社を引き継いで以降、リーマンショック、円高不況と困難に見舞われ、改善すべきと感じていた従来のやり方を見直す決心がついた。まず、疎遠となっていた取引先を取り戻し、初めて新規の営業活動も展開。堺市産業振興センターの制度を利用して55活動にも着手した。そして、何かのきっかけに参加したセミナーで可能性を感じたFacebookを活用しながら人脈を少しずつ拡大させた。「工場の状況や、失敗の改善策などを動画でアップするだけで同業者などの反応があり、中小企業も情報発信が必要だと実感します」と同氏。また、Facebookでつながったプラスチック関連技術者のアドバイスを参考に、3Dプリンターを国の補助金で導入し新たな事業展開をめざすことを決めた。「3Dスキャナーなども導入し、製品化への環境が整いました。身体障害者が車椅子に座る際に必要なサポート器具の製造など、役立てる分野を探し積極的にアプローチしていきます。何より営業ツールとして大いに活かしたい」と同氏は意気込んだ。

ものづくり分野に進出し、ペットの高齢化に対応するリハビリ器具を産学連携で展開。

人間と同様にペットとして飼っている犬にも長寿、高齢化が進んでいる。これに着目し、高齢化や肥満で散歩がしにくくなった犬の歩行補助具を開発した株式会社モリック。印刷や広告販促業に取り組みしてきた同社は、2009年に大阪府から経営革新計画の承認を受け、ものづくり分野に事業拡大。ペット関連商品の開発として当初は散歩用リードなどを作っていたが、大阪府立大学獣医学科との連携で今年7月、犬用歩行補助具の商品化にこぎつけた。「犬用の車椅子はあるが、リハビリテーションの視点で作られた製品はなかった」と同社の廣瀬賢一専務は語る。4本のパネで犬の身体を引き上げ、脚に掛かる負担を軽減し歩行をサポートする仕組み。「大学の先生から犬の歩行に関する実験データなど、多くの貴重な提言をいただき、信頼性、実用性の高いものづくりができた」と産学連携の真価を痛感する廣瀬氏。現在は大型犬用のみだが、将来的には小型・中型犬用も売り出す予定だ。